

かいたく

教会のない地域に教会を 刈り入れ場に働き人を



5月に国内宣教委員会で信越地方の教会を訪問しました。写真はフレンチ・レストランではありません。新潟県長岡市にあるアガペー聖書バプテスト教会を訪れたときのものです。バーゲット先生と奥様のシンディー先生が豪華な昼食を用意して迎えてくださいました。

左からバーゲット師ご夫妻・井口師・榎本師・三谷師・徳田師・加治佐師

それは あなたがたがエジプトから出て来たとき、
わたしがあなたがたと結んだ約束により、わたしの
霊があなたがたの間で働いている。恐れるな。まこ
とに、万軍の主はこう仰せられる。しばらくして、
もう一度、わたしは天と地と、海と陸とを揺り動か
す。(ハガイ書二章五〜六節)

私たちはしばしば落胆を経験します。その落胆は
私たちを恐れさせ諦めさせます。神殿再建を始めた
イスラエル人たちが、「主の宮を建てる時はまだ来
ない」と言って建設を放棄し、神様ではなく自分た
ちの生活だけに関心を向けたように・・・

今、私たちの心は神様の福音宣教の働きよりも、
自分や自分の家族の生活を維持すること、また老後
のことに関心が向いてはいないでしょうか。

時に、牧師や伝道師は、家族を養うためにアルバ
イトが必要なきがあるでしょう。しかし、同時に
神様の働きのためにそれを辞めるときも必要です。
また、信徒の皆さんも、自分たちの生活のことに精
一杯でしょう。しかし、同時にあなたを支えてくだ
さっているのは経済ではなく神様であると言うこと
を思い出す必要があるでしょう。

私たちは神様が、「この宮が廃墟となっているの
に、あなたがただけが板張りの家に住むべき時であ
ろうか。」と嘆かれている声を聞き、また、私たち
が一方的に忘れてしまった神様の約束はまだ有効だ
と示される神様のことばに信頼を置いて、今こそ、
福音宣教の業に勇往邁進していくべき時ではないで
しょうか。

甲府聖書バプテスト教会牧師 藤田正彦

フィリピン・キャンプ場訪問&キャンプミニストリー見学

人の子が来て食べたり飲んだりしていると、「あれ見よ。食いしんぼうの大酒飲み、取税人や罪人の仲間だ。」と言います。

イエスは言われた。「その石を取りのけなさい。」

(マタイ十一章十九節)

(ヨハネ十一章三十九節)

今年三月上旬、フィリピンのキャンプ場（ローリング財団献呈）を視察に行つてまいりましたのでその報告をさせていただきます。

御代田キャンプ場より一年遅れて献げられたフィリピンのキャンプ場を管理しているのは、アメリカ人宣教師グレッグ・ライオンズ師（マニラで牧会中の父ポイド師の次男、長男のエディ師は米国ハイストリートBCの牧師）。このキャンプミニストリーは当初、四つの教会だけが協力して始め、人数が増えるにしたがつてメガキャンプ場の必要を覚え、祈りの中で現在のキャンプ地が与えられ建設に至りました。主旨は、『ノンクリスチャン青年の救い』。そのための徹底したプログラムを持っています。

まず、キャンプ場までの六時間ほどの大型バス内伝道（バスミニストリー）、それに続く、一泊二日のキャンプ・プログラム。音楽に合わせた『闇から光へ』のサイレントドラマ（百種類ぐらい用意しています）をいくつか組み合わせ、見せるメッセージで惹きつけます。音楽はロック風のコンテンツポラリーゴスペルから、静かな招きの賛美まで、現代っ子が

違和感なく受け入れる配慮がなされています。賛美リーダーは、BBC出身の音楽伝道師です。

説教者の語るメッセージを通して、若者の心をキリストに導き、しっかりと招きも行います。毎回千二百人ぐらいの参加者ですが、八十%が未信者です。そのほとんどが招きに応え立ち上がって、引率リーダーたちに伴われて、隣の建物（食事棟）で小グループに分かれて決心を固めます。

キャンプ翌朝は、五十メートルくらいのプールで、バプテストマが行われていました。伝道師たちがそれぞれ十人ほどずつを担当し、プールの中でバプテストマの意味をしっかりと説明して、浸礼を施していました。

一人一人、首から下げるネームカードに、決心の種別がパンチされ、会場を出る時にバーコードリーダーでそれを読み取り、その情報が出身地区の牧師に送信され、キャンプ後のフォローアップの命綱とされます。

「私感」六十歳直前の日本人の私にとってこのキャンプ場は、世代ギャップに加えて、文化ショック、音楽ショックで呆

然とするばかりでした。日本でこのままをとても輸入できないけれど、ノンクリスチャンを一人でも救いに導きたい熱い思いのスタッフたちの心はしっかりと受け止めることができました。救霊のためなら何でもOKのフィリピンから日本を見れば、何かが間口を狭めていると思えたりしません。その何かをこれから突き止め、一つ一つ取り除いていく必要があると思います。



ホームページは「MEGACITY MINISTRIES INC」で検索してみてください！



谷井涙賀先生 李ジェギ先生（隣は奥様）

教会に流れるスピリット

ハレルヤバプテスト教会副牧師 谷井涙賀

わたしが、あなたの神、主である。

わたしはあなたをエジプトの地から連れ上った。
あなたの口を大きくあけよ。

わたしが、それを満たそう。（詩篇81篇10節）

教会にはそれぞれの伝統や特色が存在すると思いますが、ハレルヤ教会には、牧師の生涯のテーマ聖句である詩篇 8 1 篇 1 0 節のスピリットが随所に流れています。まず、ハレルヤ教会の会堂はドーム型をしていますが、先の御言葉から牧師が導かれてこだわって建てたものです。「あなたの口を大きくあけよ」にある、口を大きくあけているイメージがドーム会堂にはあることと、もう一つは、ドーム型が地球を現しているの、福音を全世界にあかしし、世界の祝福となるというメッセージが込められています。また牧師は先の聖句から賛美を作詞、作曲しました。この御言葉を掲げている私たちの教会には、偉大な主の前に期待して歩む信仰のスピリットが築かれてきていると思います。牧師が常々口にする「あなたの口を大きくあけよ」との主のお言葉を、私自身が如何に受けとめ、また教会の次世代に継承していくのかを祈り、考えさせられます。



昨年6月、ハレルヤバプテスト教会の次期牧師後継を視野に入れてこの地に赴任する際、主が私自身にもヴィジョンを与えてくださいました。それは、果樹の実り豊かなこの南アルプスの地が、「霊的な実をならずハーベストフィールド」となるというものです。教会の前のぶどう園を眺めていると、ヨハネ福音書の「ぶどうの木」の例え話が実によく分かるのです。この地域の方々の祝福もキリストにつながることに確信し、救霊の思いと祈りへと導かれます。将来的には、チャーチスクールを通して地域の子どもたちに聖書の価値観を土台とした教育を施すこと、また、ご高齢の方々が心に喜びと平安をもって過ごすことのできる環境を提供するケアホームを建てていきたいと祈っています。とても壮大な計画ではありますが、信仰によって祈り、箴言 1 5 章 2 2 節のお言葉にある「密議をこらして」今できることから少しずつ取り掛かり始めたところです。

そのような中、今年2月に、韓国のサラン聖書バプテスト教会（李ジェギ主任牧師）を訪問する機会が与えられました。主の前に口を大きくあけて、期待して出かけた旅を、主は溢れるばかりの恵みと祝福で満たして下さいました。将来の牧会におけるよき示唆と、韓国の兄弟姉妹との素晴らしい交わりを頂きました。李先生は、昨年の国内宣教カンファレンスに講師として初来日され、それ以来日本の教会や教役者に対して親近感を持って下さっています。同じアジアの、しかも隣国の韓国は近くて遠い国でありましたが、今回の訪問を通して過去の歴史を真摯に反省するとともに、今後の福音宣教における相互の協力関係の構築に良い感触を得ることができたと感じています。

新着情報



六月八日(土)に岐阜伝道所の市村宣夫先生が母教会の名古屋教会にて按手礼を受けられました。

2014年国内宣教カンファレンス

「キリストを宣べ伝えよ」
～あらゆる知恵と力と心を尽くして～

とき：1月6日(月)～7日(火)
場所：浜名湖開春楼
講師：斉藤雄典師（沖縄BBC牧師）
費用：4000円

国内宣教委員会の会計担当が三谷先生から加治佐先生に変わりました。会計に関するお問い合わせは加治佐先生までお願い致します
献金振込先（郵便振込）
00140・2・654375
JBBF国内宣教委員会

国内宣教委員会・教会&伝道所訪問ツアー



延べ1150キロ

●きっかけ

5月の連休が終わった13～14日に、国内宣教委員会のメンバーでおもに信越方面の教会と伝道所を訪問することができました。きっかけは、今回の委員会を上越教会で行うことになったからです。せっかくそこ

で行くならば、幾つかの教会や伝道所を訪問したいという動機で決まりました。

委員長以外の委員にとって、今回訪れたところは初めてのところばかりで、口々に、「訪問できてよかった」「祈りの中で訪れた教会や伝道所のことを思い浮かべることができる」と言っていました。委員に同行した浜田献師は、「駆け出しの伝道者の自分にとって、これらの多くの教会や伝道所を巡れた事は、これからのために貴重でとても良い学びとなりました。」と感想を聞かせてくれました。



桶川

立川

平塚

小田原



静岡

清水 (カルバリの丘 B B C)



掛川

新潟



長岡 (アガペー B B C)

上越



長野



上田



群馬

軽井沢

長野



ツアーの最後に立ち寄った神学校で学生たちと記念撮影

埼玉

東京

山梨

●スタート

訪問ツアーのルートには入っていませんでしたが、前日の12日に、委員長の榎本師が静岡市清水区にあるカルバリの丘バプテスト教会(千葉BBC伝道所)での礼拝説教のため訪れました。専従の牧師がいない中で、数名の兄弟姉妹たちで毎週の礼拝が行われています。早く専従の働き人が与えられることを祈っています。

午後から清水教会伝道師の浜田献師を車に乗せ、夕方に小田原教会へ。牧師の小泉先生は今年から地元小学校のPTA会長に選ばれ、私たちが訪問した時は急なPTAの用事のためお目にかかれませんでした。奥様のおもてなしをいただきました。

12日(日)の夜に委員の三谷師を平塚で拾い、その日の宿である立川教会へ移動。

翌日13日朝に井口師が加わり桶川教会(熊谷BBC伝道所)を訪問。内島師から、これまで借りていた土地と建物を家主さんから購入できたお証しを聞くことができました。桶川教会で徳田師と合流。一行は一路新潟へと向かい、長岡市にあるアガペー教会へ。加治佐師も加わり、バーゲット師ご夫妻との交わりとお食事を頂きました。夕方、上越教会にて委員会。

翌日14日に長野教会、上田教会(名古屋BBC伝道所)を訪問。最後に神学校に立ち寄り旅を終えました。